

# 平成30年度 中学校教育課程説明会

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」  
「保健体育科の特質に応じたICTの活用」

奈良県教育委員会事務局保健体育科  
学校体育係 指導主事 成田 剛

2018年12月26日 橿原市中央公民館

# 育成を目指す資質・能力の3つの柱

## 保健体育科の目標

現行	改訂	
<p>心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。</p>	<p>柱書</p>	<p>体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p>
	<p>知識及び技能</p>	<p>(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。</p>
	<p>思考力・判断力・表現力等</p>	<p>(2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p>
	<p>学びに向かう力、人間性等</p>	<p>(3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。</p>

# 育成を目指す資質・能力の3つの柱

## 体育分野の内容（中学校の例）

現 行	改 訂
(1) 技能	<b>(1) 知識及び技能</b>
(2) 態度	<b>(2) 思考力、判断力、表現力等</b>
(3) 知識、思考・判断	<b>(3) 学びに向かう力、人間性等</b>

# 「主体的・対話的で深い学び」の実現 (「アクティブラーニング」の視点からの授業改善)について(イメージ)

## 主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる  
「**主体的な学び**」が実現できているか。

## 対話的な学び

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えることを通じ、自己の考えを広げ深める  
「**対話的な学び**」が実現できているか。

## 深い学び

習得・活用・探求という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう  
「**深い学び**」が実現できているか。

## 【例】

- ・ 学ぶことに興味や関心を持ち、毎時間、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげる。
- ・ 「キャリアパスポート（仮称）」などを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりする。
- ・ 実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、じつしやかいの人々の話を聞いたりすることで自らの考えを広める。
- ・ あらかじめ個人で考えたことを、意見交換したり、議論したりすることで、新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりする。
- ・ 子供同士の対話に加え、子供と教員、子供と地域の人、本を通して本の作者などとの対話を図る。
- ・ 事象の中から自ら問いを見だし、課題の追求、課題の解決を行う探求の過程に取り組む。
- ・ 精査した情報を基に自分の考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて伝え合ったり、考えを伝え合うことを通じて集団としての考えを形成したりしていく。
- ・ 感性を働かせて、思いや考えを基に、豊かに意味や価値を創造していく。

## 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

主体的、対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではない。単元など内容や時間のまとまりの中で、例えば、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考え方などを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくり出すために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で授業改善を進めることが求められる。また、生徒や学校の実態に応じ、多様な学習活動を組み合わせて授業を組み立てていくことが重要であり、単元のまとまりを見通した学習を行うに当たり基礎となる知識及び技能の習得に課題が見られる場合には、それを身に付けるために、生徒の自主性を引き出すなどの工夫を重ね、確実な習得を図ることが必要である。

## ○生徒の現状に基づいた計画の作成・実施・評価・改善

年間指導計画で配当した単元ごとの指導計画を作成する際、資質・能力の3つの柱の具体的な指導内容を計画的に配当し、学習指導要領の趣旨を踏まえた指導を充実させることが大切である。体育分野においては、中学校第1学年及び第2学年においては全ての領域を学ぶこととなるため、2年間の見通しをもって、効率的で効果的な指導と評価の計画を作成することが必要である。第3学年においては、生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎を培う観点から、複数教員配置校においては、生徒が選択して学修ができるように配慮することや、単数教員配置校においては、生徒の希望ができる限り可能となる教育課程編成の工夫が求められる。

(中略)

その際、生徒の実情、教員数、施設の要件等を踏まえた無理のない計画に基づく実施とその評価及び計画の改善を一体のものとして推進することが、教科における「カリキュラム・マネジメント」として大切である。

## ○地域の人的・物的資源の活用

生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進に向けて、必要に応じて、地域の人的・物的資源等の活用を検討することも大切である。特に、障害のある生徒等への支援や実生活へのつながりを充実する観点から、活用可能な地域等の人的・物的資源等との連携を図り、指導の充実につなげることが学校と社会をつなぐ「カリキュラム・マネジメント」として大切である。

# 体育の「見方・考え方」

「体育の見方・考え方」については、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する観点を踏まえ、

「運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること。」

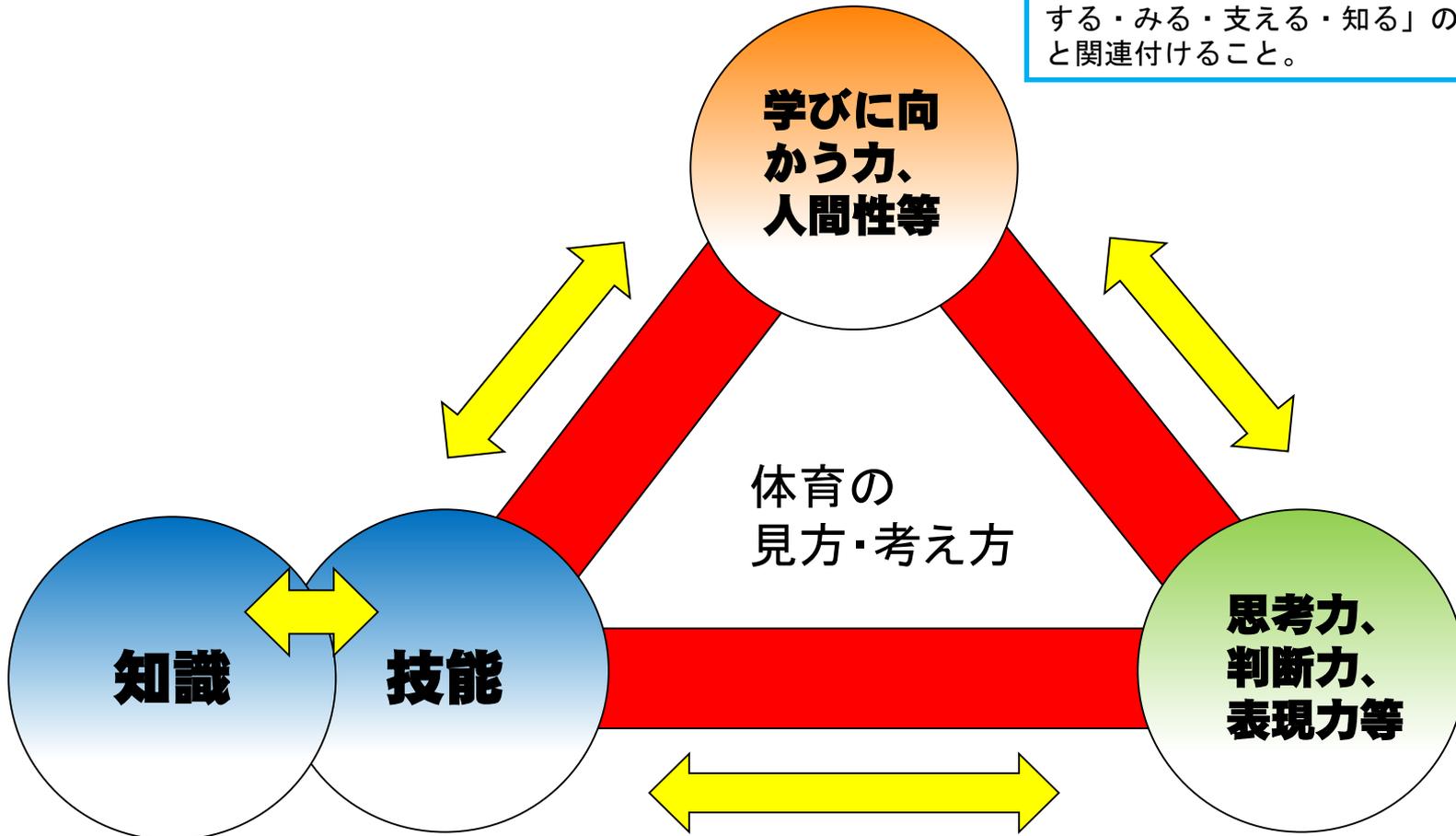
と整理した。

# 豊かなスポーツライフの実現に向けた 資質・能力と見方・考え方の関係性のイメージ

生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現  
スポーツを通じた共生社会の実現

体育の見方・考え方

運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付けること。



# 豊かなスポーツライフの実現

する

みる

支える

知る

授業場面

運動やスポーツとの多様な関わり方と関連付けることをイメージした授業を行うことによって、目標である生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現につなげることが大切

教育活動全体

運動やスポーツが苦手な生徒でもかかわることができる、楽しむことができる視点が大切

実生活・  
実社会

# 知識の系統性(指導内容の明確化)

## 各段階で示した「知識」の主な表記

中学校1年・2年	中学校3年・高校入学年次	高校その次の年次以降
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運動を継続する意義、体の構造、運動の原則</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運動の特性や成り立ち</li> <li>・ 技術（技）の名称や行い方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 技術（技）の名称や行い方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 技術（技）の名称や行い方</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関連して高まる体力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体力の高め方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体力の高め方</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝統的な考え方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝統的な考え方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝統的な考え方</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表現の仕方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交流や発表の仕方</li> <li>・ 踊りの特徴と表現の仕方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 競技会、試合、発表の仕方</li> <li>・ 文化的背景と表現の仕方</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運動観察の方法</li> <li>・ 見取り稽古の仕方</li> <li>など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題解決の方法</li> <li>・ 見取り稽古の仕方</li> <li>など</li> </ul>

# 思考力、判断力、表現力等の具体(中学校3年生水泳の例)

## 〈例示〉

- ・ 選択した泳法について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えること。

(体の動かし方や運動の行い方に関する思・判・表)

- ・ 自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えること。

(体の動かし方や運動の行い方に関する思・判・表)

- ・ 選択した泳法に必要な準備運動や自己が取り組む補助運動を選ぶこと。

(体力や健康・安全に関する思・判・表)

- ・ 健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返ること。

(体力や健康・安全に関する思・判・表)

- ・ バディやグループで分担した役割に関する成果や改善すべきポイントについて自己の活動を振り返ること。

(運動実践につながる態度に関する思・判・表)

- ・ 体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに水泳を楽しむための活動法やその修正の仕方を見付けること。

(運動実践につながる態度に関する思・判・表)

- ・ 水泳の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けること。

(生涯スポーツの設計に関する思・判・表)

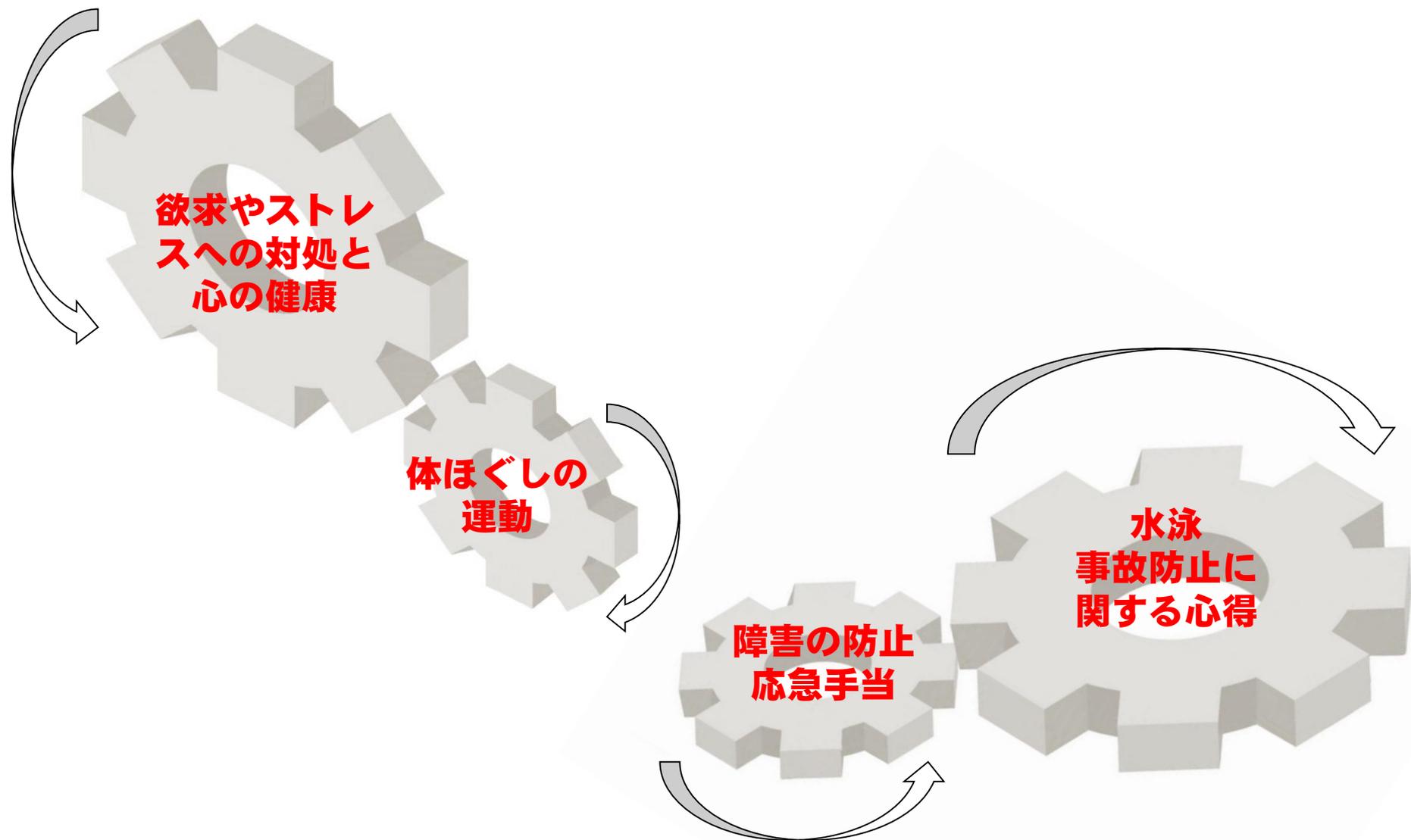
# 学びに向かう力、人間性等の系統性（指導内容の明確化）

## 各段階で示した「学びに向かう力、人間性等」の主な表記

指導事項	中学校 1年・2年	中学校 3年・高校入学年次	高校その次の年次以降
ア 共通事項	積極的に取り組もうとする	自主的に取り組もうとする	主体的に取り組もうとする
イ 公正	勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとする	勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする	
	フェアなプレイを守ろうとする	フェアなプレイを大切にしようとする	
	相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとする	相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする	
ウ 協力・責任	よい演技を認めようとする	よい演技を讃えようとする	
	仲間の学習を援助しようとする	互いに助け合い教え合おうとする	互いに助け合い高め合おうとする
	分担した役割を果たそうとする	自己の責任を果たそうとする	役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとする
エ 参画・共生	話し合いに参加しようとする	話し合いに貢献しようとする	合意形成に貢献しようとする
	一人一人の違いを認めようとする	一人一人の違いを大切にしようとする	
オ 健康・安全	健康・安全に気を配る	健康・安全を確保する	

# 保健分野との一層の関連を図った 指導の充実

# 保健分野との一層の関連を図った指導の充実



# 保健分野との一層の関連を図った指導の充実(例)

- 健康・安全
  - ・体調の変化、場所の安全確認、目的に応じた使用 など
- 思・判・表
  - ・運動に必要な準備運動や自己が取り組む補助運動を選ぶ など

運動  
領域

保健

- ・傷害は、人的要因、環境要因及びそれらの相互の関わりによって発生すること

- ・ねらいや体力の程度に応じた適切な強度、時間、回数、頻度などを考慮した組み合わせ
- ・ゆっくり→素早く  
小さい動き→大きい動き  
優しい動き→難しい動き

体つく  
り運動

体育  
理論

- ・特性や目的に適した運動やスポーツの選択
- ・発達の段階に応じた強度、時間、頻度に配慮した計画の立案
- ・体調、施設や用具の安全の事前確認
- ・準備運動や整理運動の適切な実施

## 知識を基盤とした学習の充実(知識関連の記載)

具体的には、知識に関する指導内容は、第1学年及び第2学年においては、各領域における「運動の特性や成り立ち」、「技術(技)の名称や行い方」、「その運動に関連して高まる体力」、「伝統的な考え方」、「表現の仕方」などを、第3学年においては、各領域における「技術(技)の名称や行い方」、「体力の高め方」、「運動観察の方法」、「伝統的な考え方」、「交流や発表の仕方」などを示している。

これらの指導に際しては、具体的な知識と汎用的な知識を関連させて理解できるようにするとともに、運動の行い方や健康・安全の確保の仕方などの科学的知識を基に運動の技能を身に付けたり、運動の技能を身に付けることでその理解を一層深めたりするなどの知識と技能を関連させて学習できるようにすることが大切である。

また、各領域の指導においては、体育理論の「する、みる、支える、知る」などの運動やスポーツへの多様な関わり方などや、体づくり運動の運動を継続する意義などの汎用的な知識とも関連を図ることが重要である。

## 〈器械運動の例〉

### ア マット運動

#### ○接転技群（背中をマットに接して回転する）

- ・体をマットに順々に接触させて回転するための動き方や回転力を高めるための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして回ること。

#### ○ほん転技群（手や足の支えで回転する）

- ・全身を支えたり突き放したりするための着手の仕方、回転力を高めるための動き方、起き上がりやすくするための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして回転すること。

## 第2章 保健体育科の目標及び内容

### 第2節 各分野の目標及び内容〔体育分野〕

#### 2 内容

##### (2) 思考力、判断力、表現力等

各領域の解説においては、「体の動かし方や運動の行い方に関する思考力、判断力、表現力等」、「体力や健康・安全に関する思考力、判断力、表現力等」、「運動実践につながる態度に関する思考力・判断力・表現力等」、「生涯スポーツの設計に関する思考力・判断力・表現力等」の中から、各領域で取り上げることが効果的な指導事項の具体例を重点化して示している。

これらの指導に際しては、体の動かし方や協力の仕方などの「どのように」行うのかといった具体的な知識だけではなく、その運動を支える原理や原則、意義などの「何のために」行うのかといった汎用的な知識を関連させて理解させた上で、学習場面に適応したり応用したりすることが大切である。

## 第2章 保健体育科の目標及び内容

### 第2節 各分野の目標及び内容〔体育分野〕

#### 2 内容

##### (3) 学びに向かう力、人間性等

学びに向かう力、人間性等については、各領域において愛好的態度及び健康・安全は共通事項とし、公正（伝統的な行動の仕方）、協力、責任、参画、共生の中から、各領域で取り上げることが効果的な指導内容を重点化して示している。

これらの指導に際しては、（3）学びに向かう力、人間性等を学習する際、公正、協力等の具体的な指導事項が解説で示されているが、例えば協力の場面や行動の仕方の例などの具体的な知識と、なぜ協力するのかといった協力することの意義などの汎用的な知識を関連させて指導することで、生徒自身の積極性や自主性を促し、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現していく資質・能力の育成を図ることが大切である。

# 学びに向かう力人間性等の指導内容 (中学校第3学年 陸上競技の例)

(3) 陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする事、**自己の責任を果たそうとする事**、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事などや、健康・安全を確保すること。

## 〈例示〉

- ・ 陸上競技の学習に自主的に取り組もうとする事。
- ・ 勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする事。
- ・ **仲間と互いに合意した役割について自己の責任を果たそうとする事。**
- ・ 一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事。
- ・ 健康・安全を確保すること。

## 例えば

自己の責任を果たそうとするとは、練習や記録会などで、仲間と互いに合意した役割に責任をもって自主的に取り組もうとする事を示している。

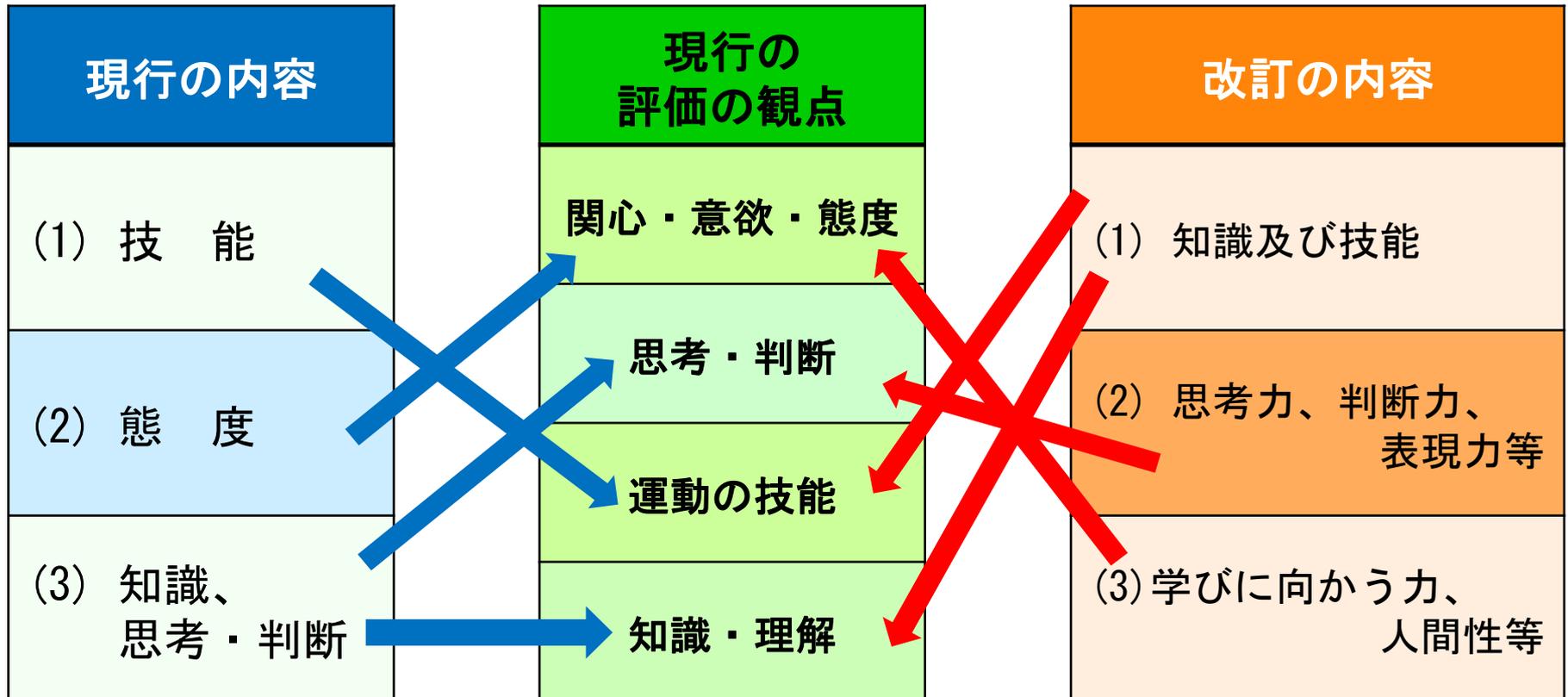
そのため、自己の責任を果たすことは、陸上競技の学習を円滑に進めることにつながることや、社会生活を過ごす上で必要な責任感を身に付けることにつながることを理解し、取り組めるようにする。

# 移行措置期間の学習評価

## 5 移行期間中における学習評価の取扱い

移行期間中における学習評価の在り方については、移行期間に追加して指導する部分を含め、現行中学校学習指導要領の下の評価規準等に基づき、学習評価を行うこと。

小学校及び中学校の学習指導要領等に関する移行措置並びに移行期間中における学習指導について（通知）平成29年7月7日



**(保健分野)**

# 中教審答申で示された資質・能力

## ○各教科等において育まれる資質・能力

## ○教科等を越えた全ての学習の基盤として育まれ活用される資質・能力

- ・ 言語能力の育成
- ・ 情報活用能力（情報技術を手段として活用する力を含む）の育成

## ○現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力

- ・ 健康・安全・食に関する力
- ・ 主権者として求められる力
- ・ 新たな価値を生み出す豊かな創造性
- ・ グローバル化の中で多様性を尊重するとともに、現在まで受け継がれてきた我が国固有の領土や歴史について理解し、伝統や文化を尊重しつつ、多様な他者と協働しながら目標に向かって挑戦する力
- ・ 地域や社会における産業の役割を理解し、地域創生等に生かす力
- ・ 自然環境や資源の有限性等の中で持続可能な社会をつくる力
- ・ 豊かなスポーツライフを実現する力

\*下線は具体的に例示されているもの

## 体育科、保健体育科において育成を目指す資質・能力の整理（中学校）

中学校 保健体育	個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<p>体育分野</p>	<p>運動の特性に応じた行い方や運動の一般原則などの知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術の名称や行い方の知識</li> <li>・運動の特性や成り立ちの知識</li> <li>・体力の要素や高め方の知識</li> <li>・運動観察の方法の知識</li> <li>・伝統的な考え方の知識 など</li> </ul> <p>スポーツに関する科学的知識や文化的意義等の基礎的な知識</p> <p>各種の運動が有する特性や魅力に応じた基本的な技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知識を踏まえて、基本的な運動の技能として発揮したり、身体表現したりする</li> </ul>	<p>自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できる思考力・判断力・表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の課題に応じた運動の行い方の改善すべきポイントを見付ける力</li> <li>・運動実践の場面で、自己の課題に応じて、適切な練習方法を選ぶ力</li> <li>・運動実践の場面で、健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な活動を選ぶ力</li> <li>・状況に応じた自己や仲間の役割を見付ける力</li> <li>・作戦などの話し合いの場面で、合意を形成するための適切なかかわり方を見付ける力</li> <li>・運動を継続して楽しむための、スポーツとの多様な関わり方を見付ける力</li> <li>・思考・判断したことを、根拠を示しながら相手に伝えたり表現したりする力 など</li> </ul>	<p>生涯にわたって運動に親しみ、明るく豊かな生活を営む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の楽しさや喜びを味わい、自主的に学習活動に取り組む態度</li> <li>・運動における競争や協同の場面を通して、多様性を認識し、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画するなどの意欲を持つ</li> <li>・相手を尊重し伝統的な行動の仕方を大切にしようとする</li> <li>・運動実践の場面で、健康・安全を確保する</li> <li>・スポーツとの多様な関わり方を場面に応じて選択し、実践することができる態度 など</li> </ul>
<p>保健分野</p>	<p>個人生活における健康・安全についての科学的な知識や技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代的な健康課題を踏まえた心身の機能の発達と心の健康、健康と環境、傷害の防止、健康な生活と疾病の予防に関する知識</li> <li>・ストレス対処、応急手当に関する基礎的な技能</li> </ul>	<p>健康課題を把握し、適切な情報を選択、活用し、課題解決のために適切な意思決定をする力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の健康課題を発見する力</li> <li>・健康情報を収集し、批判的に吟味する力</li> <li>・健康情報や知識を活用して多様な解決方法を考える力</li> <li>・多様な解決方法の中から、適切な方法を選択・決定し、自他の生活に生かす力</li> <li>・自他の健康の考えや解決策を対象に応じて表現する力</li> </ul>	<p>健康の保持増進のための実践力を育成し、明るく豊かな生活を営む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の健康に関心をもち</li> <li>・自他の健康に関する取組のよさを認める</li> <li>・自他の健康の保持増進や回復のために協力して活動する</li> <li>・自他の健康の保持増進に主体的に取り組む</li> </ul>

健康の大切さ、健康の保持増進に向かう情意や態度等

どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか

どのように学ぶか  
(アクティブ・ラーニングの視点からの創造的な学習プロセスの実現)

教科横断的なカリキュラム・マネジメントの実現

- 法令等
- ・教育振興基本計画
  - ・健康増進法
  - ・歯科口腔保健の推進に関する法律
  - ・アルコール健康障害対策基本法
  - ・少子化社会対策大綱
  - ・がん対策推進基本計画
  - ・消費者基本計画

何を知っているか  
何ができるか

健康な生活を送るための基礎となる各教科等の知識・技能

知っていること・できることをどう使うか

自らの健康を適切に管理し、改善していく力  
健康に係る情報を収集し、意思決定(意志決定)・行動選択していく力  
等

# 体育科・保健体育科におけるアクティブ・ラーニングのイメージについて(保健)

## 基本的な 考え方

- ・特定の型や、方式化された授業の方法や技術ではなく、授業改善の考え方として捉える。
- ・子供の学びへの積極的関与と深い理解を促すような指導や学習環境を設定することにより、子供たちの自信を育み、必要な資質・能力を身に付けていくことができるようにする。
- ・具体的な学習プロセスは限りなく存在し得るものであり、教員一人一人が、子供たちの発達の段階や発達の特性、子供の学習スタイルの多様性や教育的ニーズと学習内容、単元の構成や学習の場面等に応じた方法について研究を重ね、ふさわしい方法を選択しながら、工夫して実践できるようにすることが重要。

## 深い 学び

習得・活用・探求という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた学びの過程の実現

- ・健康に関する身近な生活やそれを取り巻く社会環境の状況から、健康課題に気付く。
- ・健康に関する情報を収集、批判的に吟味し、健康課題の解決に役立つ情報を選択する。
- ・選択した健康情報や習得した知識や技能を活用して、健康課題の解決方法を考える。
- ・健康課題の解決方法を自他の生活と比較したり、関連付けたりし、意志決定・行動選択に役立てる。

## 対話的な 学び

他者との協働や外貨との相互作用を通じて、自らの考え方を広げる学びの過程の実現

- ・健康課題や健康情報を仲間と共有する。
- ・健康課題の解決に向けて、仲間と教え合ったり相談し合ったりしながら多様な解決方法を考える。
- ・健康に関する考えや提案を相手の立場を考えて伝え合う。
- ・健康に関する話し合いを通して、仲間の学びや取組に対する良さを認め、自己の健康の保持増進や回復に生かす。

## 主体的な 学び

見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる学びの過程の実現

- ・健康に関心をもち、健康課題の解決に向けて意欲的に取り組む。
- ・学習の見通しをもつとともに、健康の大切さに気付き、健康課題の解決に向けて粘り強く取り組む。
- ・学習を振り返り、獲得された健康に関する知識・技能や考え方を確認する。

# 知識の理解の質を高め資質・能力を育む 「主体的・対話的で深い学び」①

## 「何ができるようになるか」を明確化

知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育むため、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していけるよう、全ての教科等を

①知識及び理解

②思考力、判断力、表現力等

③学びに向かう力、人間性等

の3つの柱で再整理。

\*高等学校も同様

# 体育科・保健体育科における保健の学習の体系

生涯を通じて自らの健康を適切に  
管理し改善していく資質や能力の育成

2単位  
(70h)

個人及び社会生活における  
健康・安全に関する内容

高等学校  
より総合的に

48h  
程度

個人生活における  
健康・安全に関する内容

中学校  
より科学的に

24h  
程度

身近な生活における  
健康・安全に関する基礎的な内容

小学校  
より実践的に

生きる力を育む小学校保健教育の手引（文部科学省H25.3）

# 体育科・保健体育科における保健の学習の体系

学校保健計画の策定・実施を通じて、保健教育と保健管理を適切に行うことにより、児童生徒や教職員の健康の保持増進を目指す。これらの活動を円滑かつ効果的に推進するために組織活動が位置付いている。

心身の健康の保持増進に関する指導は保健教育にあたり、学校生活はもちろんのこと、家庭や地域社会における日乗生活においても、児童生徒が積極的に心身の健康の保持増進を図っていく資質や能力を身に付け、生涯を通じて健康で活力ある生活を送るための基礎を培うことをねらいとしている。

## 学校保健計画 (学校保健安全法第5条に基づく)

体育・保健体育、  
関連教科、総合的  
な学習の時間等

特別活動、個別指  
導、日常の学校生  
活等

保健  
教育

組織活動

保健  
管理

対人  
管理

健康観察・健康診  
断、健康相談等  
による心身の管理や  
生活の管理等

対物  
管理

学校環境の安全・  
衛生的管理、学校  
環境の美化等

教職員の組織、協力体制の確立、  
家庭、地域との連携、学校保健委員会等

# 保健教育の用語の変更について

平成28年12月21日の中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（答申）では、「健康・安全・食に関する資質・能力」において言及する中で次のことが示された。

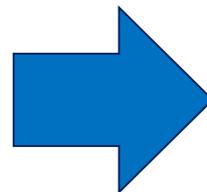
答申P. 42（脚注）

「なお、従来教科等を中心とした『安全学習』『保健学習』と特別活動等による『安全指導』『保健指導』に分類されている構造については、資質・能力の育成と、教育課程全体における教科等の役割を踏まえた再整理が求められる。」との指摘があり、それを踏まえて学習指導要領等では教科等を分類する用語である「保健学習」「保健指導」の用語を用いた分類は使用せず、教職員や国民が理解できる教科等の名称で説明することとなった。

保健教育



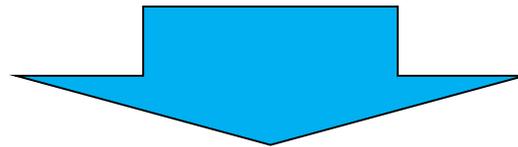
保健学習  
保健指導



「保健教育」として  
ひとくくりで示す

# 体育科の目標の構造

生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成



(1) 運動や健康についての知識及び技能

(従前)  
技能

(2) 思考力、判断力、表現力等

思考・判断

(3) 学びに向かう力、人間性等

態度

## 保健の見方・考え方

保健の見方・考え方については、疾病や傷害を防止するとともに、生活の質や生きがいを重視した健康に関する観点を踏まえ、「個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること」であると考えられる。

(中教審答申より)

# 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善

- **主体的に学習**に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面を **どこに設定するか**。
- **対話**によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面を **どこに設定するか**。
- **学びの深まり**をつくりだすために、児童が考える場面と教師が教える場面を **どのように組み立てるか**。

## 「主体的な学び」として想定できる子供の姿(例)

- 学ぶことに興味や関心を持ち、毎時間、見通しをもって粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげている。
- 自ら課題を修正したり新たな課題を設定したりしている。
- 課題の解決に向けて、何度も粘り強く取り組んでいる。
- 自他の健康について、自ら将来を見通したり、振り返ったりする。

## 「対話的な学び」として想定できる子供の姿(例)

- 子供同士の対話を通して、自己の思考を広げたり、深めたりしている。
- 実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりすることで自らの考えを広めている。
- あらかじめ個人で考えたことを、意見交換したり、議論したりすることで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりしている。
- 子供同士の対話に加え、子供と教員、子供と地域の人、本を通して本の作者などと対話を図っている。

## 「深い学び」として想定できる子供の姿(例)

- 健康についての課題を発見し、解決に向けて試行錯誤を重ねながら、考えを深めている。
- 事象の中から自ら問を見いだし、課題の追求、課題の解決を行う探求の過程に取り組んでいる。
- 精査した情報を基に自分の考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて伝え合ったり、考えを伝え合うことを通して集団としての考えを形成したりしていく。
- 感性を働かせて、思いや考えを基に、豊かに意味や価値を創造していく。

# 心の健康・ストレス対処等に関する内容

○心の健康に関する内容は、小・中・高の保健の学習で、それぞれの発達段階に応じた指導を行っている。

○小5の「不安や悩みへの対処」、中1の「ストレスへの対処」の内容を新たに保健の「技能」と位置付けて、具体的な対処を学習することとした。

○高校の内容として新たに精神疾患を位置付け、その予防と回復について学習することとした。

## 《小学校》

- 身近な日常生活の体験や事例などを題材にした話し合い
- 思考が深まる発問の工夫や思考を促す資料の提示
- 課題の解決的な活動や発表
- ブレインストーミング
- けがの手当などの実習、実験

## 《中学校》

- 内容への興味・関心を高めたり、思考を深めたりする発問の工夫
- 自他の日常生活に関連が深い教材・教具の活用
- 事例などを用いたディスカッション
- ブレインストーミング
- 心肺蘇生法などの実習、実験
- 課題学習
- (必要に応じて)コンピュータ等の活用
- (学校や地域の実情に応じた)保健・医療機関等の参画推進

# 小・中・高等学校の保健の内容

小学校（保健領域）	中学校（保健分野）	高等学校（科目保健）
<p>「健康な生活」（3年）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康な生活</li> <li>1日の生活の仕方</li> <li>身の回りの環境</li> </ul> <p>「体の発育・発達」（4年）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体の発育・発達</li> <li>思春期の体の変化</li> <li>体をよりよく発育・発達させるための生活</li> </ul> <p>「心の健康」（5年）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>心の発達</li> <li>心と体との密接な関係</li> <li>不安や悩みへの対処</li> </ul> <p>「けがの防止」（5年）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがとその防止</li> <li>けがの手当</li> </ul> <p>「病気の予防」（6年）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>病気の起こり方</li> <li>病原体が主な要因となって起こる病気の予防</li> <li>生活行動が主な要因となって起こる病気の予防</li> <li>喫煙、飲酒、薬物乱用と健康</li> <li>地域の様々な保健活動の取組</li> </ul>	<p>「健康な生活と疾病の予防」（1. 2. 3年）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康の成り立ちと疾病の発生要因</li> <li>生活習慣と健康</li> <li>生活習慣病などの予防</li> <li>喫煙、飲酒、薬物乱用と健康</li> <li>感染症の予防</li> <li>個人の健康を守る社会の取組</li> </ul> <p>「心身の機能の発達と心の健康」（1年）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身体機能の発達と個人差</li> <li>生殖に関わる機能の成熟と適切な行動</li> <li>精神機能の発達と自己形成</li> <li>欲求やストレスへの対処と心の健康</li> </ul> <p>「障害の防止」（2年）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因</li> <li>交通事故などによる傷害の防止</li> <li>応急手当</li> </ul> <p>「健康と環境」（3年）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身体の環境に対する適応能力・至適範囲</li> <li>飲料水や空気の衛生的管理</li> <li>生活に伴う廃棄物の衛生的管理</li> </ul>	<p>「現代社会と健康」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康の考え方</li> <li>現代の感染症とその予防</li> <li>生活習慣病などの予防と回復</li> <li>喫煙、飲酒、薬物乱用と健康</li> <li>精神疾患の予防と回復</li> </ul> <p>「安全な社会生活」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安全な社会づくり</li> <li>応急手当</li> </ul> <p>「生涯を通じる健康」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生涯の各段階における健康</li> <li>労働と健康</li> </ul> <p>「健康を支える環境づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境と健康</li> <li>食品と健康</li> <li>保健・医療制度及び地域の保健医療機関</li> <li>様々な保健活動や社会的対策</li> <li>健康に関する環境づくりと社会参加</li> </ul> <p>（原則として、入学年次及びその次の年次の2か年にわたり履修）</p>

- ①教育内容を、1つの教科に留まらずに各教科横断的な相互の関係で捉え、効果的に編成する。
- ②子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程の編成、実施、評価、改善のサイクルを確立する。
- ③教育内容と、指導体制やICT活用など諸条件の整備・活用を効果的に組み合わせる。

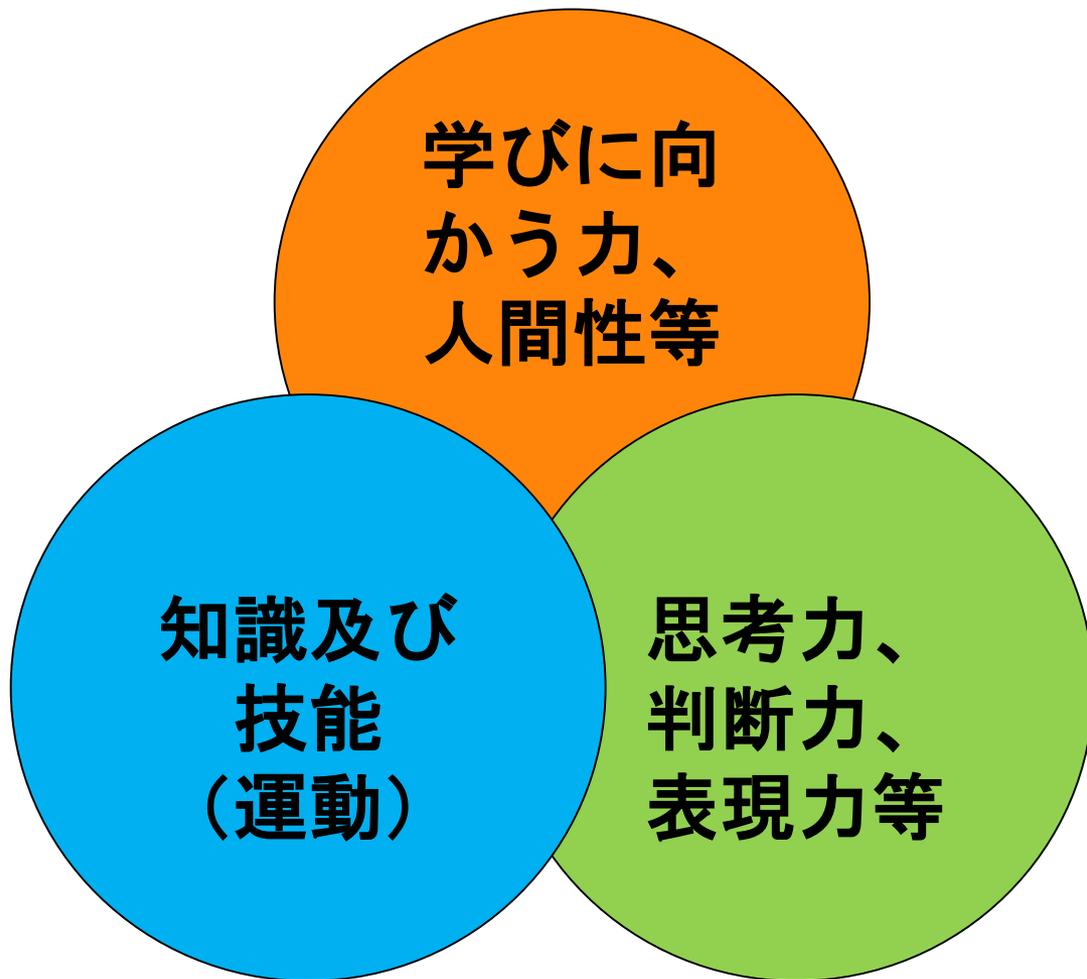
新設

## 第5 学校運営上の留意事項

### 1 教育課程の改善と学校評価等

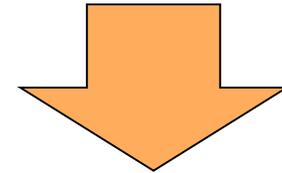
イ 教育課程の編成及び実施に当たっては、学校保健計画、学校安全計画、食に関する指導の全体計画、いじめの防止等のための対策に関する基本的な方針など、各分野における学校の全体計画等と関連付けながら効果的な指導が行われるように留意するものとする。

# 体育、保健体育で育成すべき資質・能力



指導場面の設定

自覚できる  
場面の設定



指導と評価の一体化の  
確実な推進

生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現

- 授業の充実
  - 体罰等の根絶
  - 体育活動中の事故の絶無
- 学校における体育活動の一層の充実

**これまでの実践、経験に頼る  
だけでなく、多様な面で指導力  
を発揮できるよう、継続的に資  
質能力の向上を図りましょう。**